

2022年度東京都立大学ダイバーシティ推進室
ライフイベント支援に関する調査 概要報告 学生編

調査対象：東京都立大学の学部生・大学院生・研究生

回答件数：325件

調査方法：Microsoft forms を用いた Web アンケート

調査時期：2022年6月6日（月）～6月20日（月）

1. フェイスシート（いずれも n=325）

1) 性別

男性 199 女性 112 その他 12 無回答 2

2) 所属キャンパス

南大沢 238 日野 24 荒川 54 丸の内 7 晴海 1 無回答 1

3) 所属学部・研究科

人文社会 75 健康福祉 70 都市環境 44 SD 43 理 36 法 31
経済経営 24 無回答 2

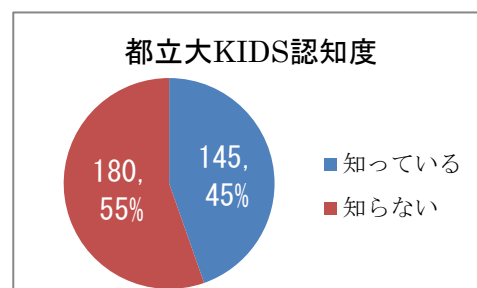
4) 区分

学部生 214 大学院生 94 研究生 15 無回答 2

2-1. 本学が南大沢キャンパス近くで運営する一時保育施設「都立大 KIDS」をご存じですか。

知っている 145 45%

知らない 180 55%



2-2. 一時保育施設「都立大 KIDS」を何で知りましたか。（複数回答可）

学内掲示 121

ダイバーHP 16

大学HP 11

利用者からの口コミ 5

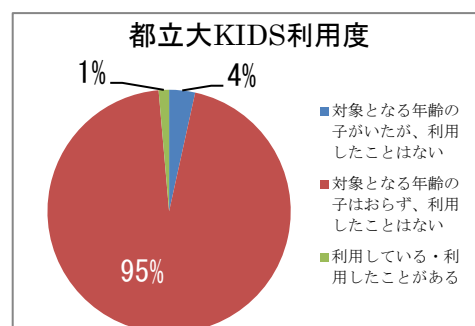
大学 twitter 3

案内メール 1

その他 3

2-3. あなたは一時保育施設「都立大 KIDS」を利用したことがありますか。(いずれか1つ)

- 対象となる年齢の子がいたが、利用したことはない 5
- 対象となる年齢の子はおらず、利用したことはない 138
- 利用している・利用したことがある 2



2-4. 一時保育施設「都立大 KIDS」を利用した理由は何ですか。(複数回答可)

- 配偶者や家族など、普段子どもの世話をしてくれる人の都合が悪くなった 1
- 常時保育施設に入所できなかった 1
- 普段利用している保育施設が休園などで使えなくなった 1
- 土日祝日に勤務の必要が生じた 1

2-5. 一時保育施設「都立大 KIDS」を利用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

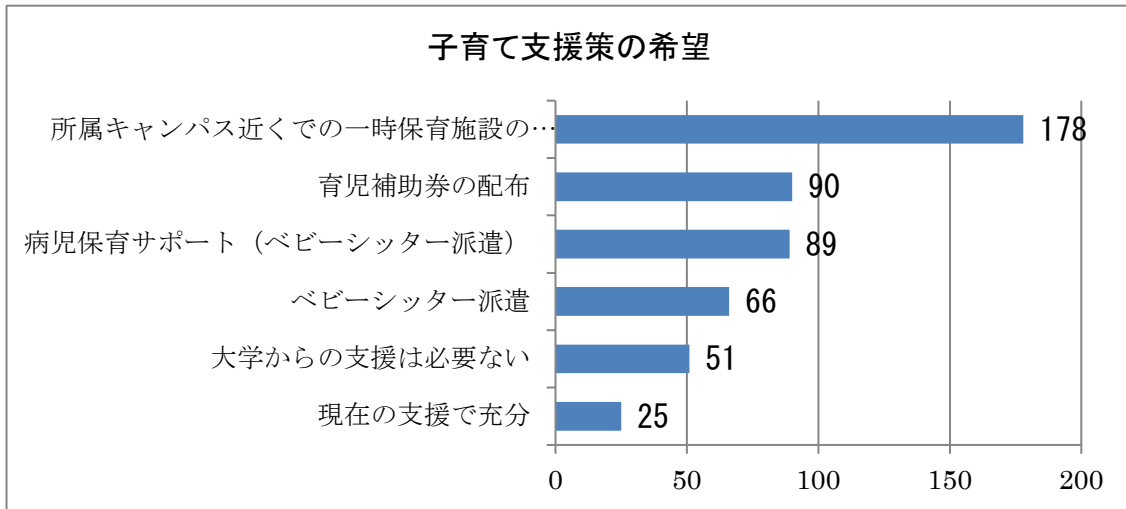
- 所属キャンパスから離れており利用できなかった 2
- 利用したい時間には開いていなかった 2
- 常時保育施設を利用していた 2
- 配偶者や家族など、普段子どもの世話をしてくれる人がいた 1
- 費用負担が大きい 1

2-6. どのような状況であれば一時保育施設「都立大 KIDS」を利用しますか。(複数回答可)

- 普段利用している保育施設が休園などで使えなくなった場合 2
- 土日祝日に勤務の必要が生じた場合 2
- 配偶者や家族など、普段子どもの世話をしてくれる人の都合が悪くなった場合 2
- その他 1

3. 子育てに関して、大学からどのような支援があれば利用しますか。(複数回答可)

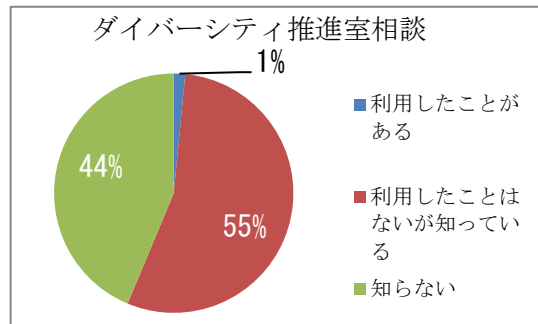
- 所属キャンパス近くでの一時保育施設の運営 178
- 育児補助券の配布 90
- 病児保育サポート（ベビーシッター派遣） 89
- ベビーシッター派遣 66
- 現在の支援で充分 25
- 大学からの支援は必要ない 51



4. ダイバーシティ推進室が行っている相談事業について、ご存知ですか

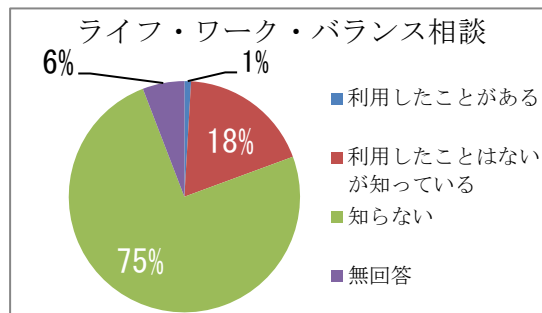
4-1. ダイバーシティ推進室相談

利用したことがある 5
 利用したことはないが知っている 178
 知らない 142



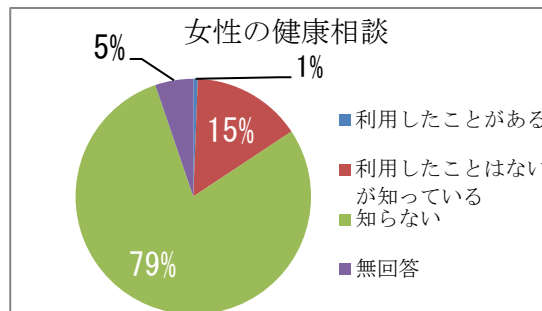
4-2. ライフ・ワーク・バランス相談

利用したことがある 3
 利用したことはないが知っている 60
 知らない 243
 無回答 19



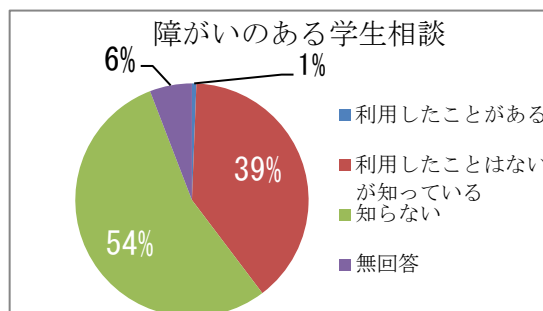
4-3. 女性の健康相談

利用したことがある 2
 利用したことはないが知っている 49
 知らない 257
 無回答 17



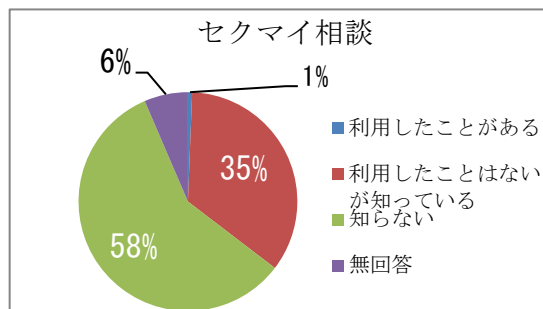
4-4. 障がいのある学生相談

利用したことがある 2
 利用したことはないが知っている 127
 知らない 177
 無回答 19



4-5. セクマイに関する相談

利用したことがある 2
 利用したことはないが知っている 113
 知らない 189
 無回答 21

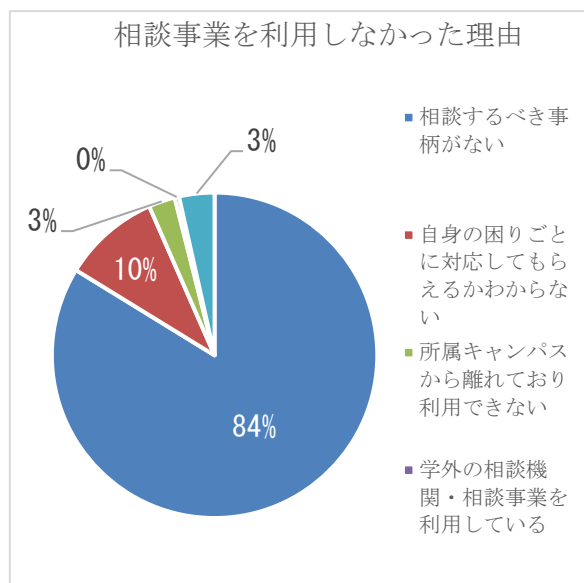


4-6. 「利用したことがある」および「利用したことはないが知っている」事業について、ダイバーシティ推進室の相談事業を何で知りましたか。(複数回答可)

相談案内リーフレット 100
 ダイバーシティ推進室 HP 73
 学長室からのメール案内 27
 学内掲示 15
 入学説明会 8
 利用者からの口コミ 6
 その他 6

4-7. 「利用したことはないが知っている」事業について相談事業を利用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

相談すべき事柄がない 191
 自身の困りごとに対応してもらえないかわからない 22
 所属キャンパスから離れており利用できない 6
 学外の相談機関・相談事業を利用している 1
 その他 8



4-8. 「利用したことはないが知っている」事業について、どのような状況であれば相談事業を利用しますか。(複数回答可)

相談すべき事柄が発生した場合 178

自身の困りごとに対応してもらえるとわかった場合 80

オンラインや南大沢以外のキャンパスで相談できる場合 26

学外に適切な相談機関・相談事業がない場合 19

利用の予定はない 11

その他 2

4-9. 現在実施しているもの以外に希望する相談事業があれば教えてください。(一部抜粋)

- ・「男女平等やジェンダー」という言葉が入った相談(複数意見)
- ・育児と学業の進め方の相談
- ・仕事と学業の進め方の相談

5. 最後に、本学の学生に対するライフイベント支援について、意見などありましたら教えてください。(一部抜粋)

- ・ダイバーシティ推進室とその取り組みについての情報発信が必要(複数意見)
- ・ライフプランに関するイベントの開催(複数意見)
- ・学費減免等、学生の妊娠・出産へのサポート(複数意見)
- ・育児と研究の両立をサポートするための研修の開催(複数意見)
- ・働きながらも無理なく履修できるようなカリキュラムや授業時間等の配慮(複数意見)
- ・介護に関する相談場所や支援
- ・だれでも性に関して語れる場づくり
- ・病気などにかかった学生のサポート、支援、理解の周知

●まとめ

- ・都立大 KIDS の認知度は 45%であり、決して低いとは言えない数値ではあるものの、そのうち「対象となる年齢の子はおらず、利用したことはない」が 95%にのぼり、学生については認知度が実際の利用には結びついていない。
- ・都立大 KIDS を利用しなかった理由および利用する条件をあわせて見ると、将来的に積極的な利用を検討しているのではなく、現在の保育環境で対応できない状況が生じた場合の保険として利用を検討していることがうかがえる。
- ・子育て支援策の希望としては、「所属キャンパス近くでの一時保育施設の運営」が群を抜いて多く、一時保育施設への潜在的なニーズの高さがうかがえる。
- ・これに次いで、「育児補助券の配布」と「病児保育サポート(ベビーシッター派遣)」にほ

ば同等のニーズがある。

- 相談事業については、いずれの相談事業も利用経験は1%で共通している。
- 「ダイバーシティ推進室相談」をのぞいた専門相談について、認知度がいずれも50%を下回っている。
- 特に、相談員を外部の方に委託している「ライフ・ワーク・バランス相談」と「女性の健康相談」については、「知らない」が75%を超えており、早急に認知度の向上を図ることが必要と言える。
- 相談事業を利用しなかった理由として、「相談すべき事柄がなかった」以外では「自身の困りごとに対応してもらえないかわからない」が最も多く、また利用意向としても「自自身の困りごとに対応してもらえるとわかった場合」が最も多かったことから、どのような相談に対応が可能であるのかを、より具体的な形で広報する必要があることがうかがえる。
- 自由記述欄より、学生に対するライフイベント支援に関して情報が十分に届いていない状況がうかがえる。
- 特に社会人学生については、授業やゼミの時間帯など、ライフ・ワーク・バランスの観点からのサポートが必要な状況がうかがえる。

以上